

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成30年10月25日 (2018.10.25)

【公表番号】特表2018-505861(P2018-505861A)

【公表日】平成30年3月1日 (2018.3.1)

【年通号数】公開・登録公報2018-008

【出願番号】特願2017-533018(P2017-533018)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/16 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

A 6 1 K 31/43 (2006.01)

A 6 1 K 31/635 (2006.01)

A 6 1 K 31/505 (2006.01)

C 0 7 K 14/245 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 38/16 Z N A

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 43/00 1 2 1

A 6 1 P 31/04

A 6 1 K 31/43

A 6 1 K 31/635

A 6 1 K 31/505

C 0 7 K 14/245

【手続補正書】

【提出日】平成30年9月14日 (2018.9.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

その必要のある被検者におけるインフルエンザ後の細菌重感染を処置する方法であって、被検者に治療上有効量のフラジェリンポリペプチドを、場合により少なくとも 1 つの抗生物質と組み合わせて投与することを含む方法。

【請求項 2】

前記細菌重感染が、肺炎連鎖球菌 (Streptococcus pneumoniae) ; 黄色ブドウ球菌 (Staphylococcus aureus) ; インフルエンザ菌 (Haemophilus influenza) 、マイコプラズマ種 (Mycoplasma species) 及びモラクセラ カタラーリス (Moraxella catarrhalis) からなる群より選択される少なくとも 1 つの生物により媒介される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記被検者が、少なくとも 50 歳である被検者、長期療養施設に滞在する被検者、肺若しくは心臓脈管系の慢性障害を有する被検者、慢性代謝病、腎機能不全、異常ヘモグロビン症、又は免疫抑制のために前年、定期的な医療経過観察又は入院が必要であった被検者、14 歳未満の年齢の小児、長期のアスピリン治療を受けている 6 カ月から 18 歳の間の年齢の患者、及びインフルエンザの季節の間に妊娠の第二期又は第三期を迎える女性から

なる群より選択される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記フラジェリンポリペプチドが、配列番号：1、配列番号：2 又は配列番号：3 と少なくとも 70 % の同一性を有する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記フラジェリンポリペプチドが、a) 配列番号：3 の第 1 位に位置するアミノ酸残基から始まり、配列番号：3 の第 99 ~ 173 位に位置するアミノ酸残基のいずれか 1 つからなる群より選択されるアミノ酸残基で終わるアミノ酸配列と少なくとも 90 % のアミノ酸同一性を有する N 末端ペプチド；及び b) 配列番号：3 の第 401 ~ 406 位に位置するアミノ酸残基のいずれか 1 つからなる群より選択されるアミノ酸残基で始まり、配列番号：3 の第 494 位に位置するアミノ酸残基で終わるアミノ酸配列と少なくとも 90 % のアミノ酸同一性を有する C 末端ペプチドを含み、前記 N 末端ペプチドは前記 C 末端ペプチドに直接連結されているか、又は前記 N 末端ペプチドと前記 C 末端ペプチドとが間接的に、スパーサー鎖を介して互いに連結されている、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記 N 末端ペプチドが、配列番号：3 のアミノ酸配列 1 ~ 99、1 ~ 137、1 ~ 160 及び 1 ~ 173 からなる群より選択される、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】

前記 C 末端ペプチドが、配列番号：3 のアミノ酸配列 401 ~ 494 及び 406 ~ 494 からなる群より選択される、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 8】

前記 N 末端及び C 末端ペプチドが、それぞれ配列番号：3 のアミノ酸配列 1 ~ 173 及び 401 ~ 494 からなる、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 9】

前記 N 末端及び C 末端ペプチドが、それぞれ配列番号：3 のアミノ酸配列 1 ~ 160 及び 406 ~ 494 からなる、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 10】

前記 N 末端及び C 末端ペプチドが、それぞれ配列番号：3 のアミノ酸配列 1 ~ 137 及び 406 ~ 494 からなる、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 11】

前記 N 末端ペプチドと前記 C 末端ペプチドとが間接的に、 $\text{NH}_2\text{-Gly-Ala-Ala-Gly-COOH}$  (配列番号：4) ペプチド配列からなる中間スパーサー鎖を介して互いに連結されている、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 12】

配列番号：3 の第 488 位に位置するアスパラギンアミノ酸残基が、セリンで置換されている、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 13】

前記抗生物質が、アミノグリコシド類、ラクタム類、キノロン類又はフルオロキノロン類、マクロライド類、スルホンアミド類、スルファメトキサゾール類、テトラサイクリン類、ストレプトグラミン類、オキサゾリジノン類、リファマイシン類、糖ペプチド、ポリミキシン類、リポペプチド抗生物質からなる群より選択される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 14】

前記抗生物質が、アモキシシリンである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 15】

前記抗生物質が、スルファメトキサゾール及びトリメトプリム双方を含む、請求項 1 に記載の方法。